

自然環境に託す、官と民との協働

環境協働組織

鳥海自然ネットワーク 今井 富世



ゆざ環境協働組織「鳥海自然ネットワーク」。聞き慣れない言葉である。環境、自然、鳥海、ネットワーク、参加勧誘の説明にも困る長つたらしい名前で、説明しやすそうで説明しにくい。いったい何をどうする組織なんだと言われてしまいそうな雰囲気である。

この組織は、一九九七年遊佐町が策定した「遊水の郷づくり基本構想」に基づいて、行政、町民、専門家グループ等が協働して設立した。遊佐町の豊かな自然環境を守り、その自然を活用し、自然との触れ合いを楽しむための手助けや、遊佐町に残された「自然」という得がたい材料を生活に活用するための活動を目標としている。この組織の発足にあたり、東北芸術工科大学環境デザイン学科の小林敬一助教授、および遊佐町企画調整課の全面的なご指導とご協力をいただいた。紙面を借りてお礼を申し上げたい。

私たちは、自然と良好な関係を築こうと考えて行動している、意識ある人々の持っている知識や技を、ネットワーク化しようと考えて

いる。自然への近づきやすさ、自然の魅力を感ぜさせる環境づくり、自然に触れる体験の機会の提供、自然とつき合う知識の学習、自然から受けた感動や情報の発信が活動の主たる内容である。

遊佐町が目指す「遊水の郷づくり」の舞台は鳥海山麓であり、遊佐町に残された美しい自然である。私たちは、かけがえない環境を守りその魅力をさらに引き出し、自然に刺激されて、新たな時代の文化創造に挑もうとしている人々の集いを目指す。そして、自然に触れ多くの語らいが生まれる事によって、地域をつくる新しい考えや、眠っていた知恵が目覚め、さらに生き生きと豊かな表情を持つだろうと考えている。そして、遊佐町の次代を担う若い世代にこの自然を残し、自然とのかかわり方を伝え、将来にわたり心の中に美しい故郷を残して欲しいものだと思っている。

これらの活動を行うため、ゆざ環境協働組織「鳥海自然ネットワーク」は、平成十一年

三月二十一日に設立された。特徴としては、行政と民間との力を協働という概念で結ぶネットワーク型の組織であるということである。今日まで多くの自然保護、自然保全等が行われてきたが、環境を担当する行政の動きと民間自然保護団体等は、動きと考え方の面で食い違いが多く相互不信を招くことが多かった。ともすれば、官民が敵対し、互いの不備な面や互いの限界の中で重要な力を削ぎ合ってきたともいえる。

しかし、互いの不備を嘆いたり、互いのふがいなさをつつき合うことは、自然を守り楽しむことの前進にとって避けなければならぬことのはずである。鳥海自然ネットワーク活動においては、行政のもつ環境情報や法的な知識と、民間における自由な発想や人的ネットワークを結びつけることによって、今までよりも幅広い活動が展開できると考えている。鳥海自然ネットワークは、行政にありがちな紋切型事業ではなく、かつ民間活動の持つ甘えや限界が目に見えるようなものでも



ないものにしていくことが重要である。血の通う生命力のある新しい型の官と民の協働を成し遂げようと考えている。

当面私たちは、個々の組織では力不足で出ない部分を、ネットワークによる各組織、各会員の力や知恵を集結し、各組織の考えを最大限生かし、互いの目指す活動の全体化を計っていくこととしている。ネットワーク自

体を構成する団体、個人、各組織会員が主体的に自らの課題解決のための活動実践を行い、ネットワークがそれを全体化し広げていく活動を目指す。これはいすれ環境保全活動、地域活性化の新しい流れとなっていくのである。

この庄内で残された自然、空間、全地球的な規模で起きている環境破壊、それに加担している自分も含めての闘いであるといえる。例えば、熱帯雨林の減少に拍車をかけている先進国の生活様式などを見直し、一人ひとりから、そして組織へさらにネットワークを通じて全体化し広げていくことなどは、環境行政としての大きな課題でもあり、そして一人ひとりの生き方を変えていくという、生活者としての課題でもある。

今春に設立されたばかりの組織ではあるが、平成十一年七月二十四日～二十五日に遊佐町の「遊楽里」で行われた「湧水保全交流フォーラム遊佐会議」への組織的参加、十月の「環境自治体会議山形ワークショップ」への参加と主催事業の「鳥海山湧水めぐりの旅」の実施などを計画している。また、会員主体の活動としては、遊佐の四季と鳥海山の自然を思いっきり楽しむ「野遊び例会」（ゲンジボタルを楽しむ・秋はやっぱり芋煮会等の企画）の開催、さらには遊佐と鳥海山の自然の全国ファン獲得のための会員獲得キャンペーンの実施などを計画している。もちろんネットワークであるから、参加している会員（個人・団体）それぞれ

の主体的な活動を支援し、広めることを日常的に行うが、それぞれの活動を一定期間ごとに突き合わせて学び合い、全体化するという活動を目指す。そのため、「ニューズレター「つゆめちよ」の季刊発行を行うこととし、七月に創刊号の発行を行った。

そして活動を支える財政活動のため会員獲得と合わせ、収益事業への取り組みを行うこととしている。NPOとして自立し、活動を支える財政活動は、活動理念と両輪の活動でもある。例えば、遊佐と鳥海山を規定する特産品の販売マネジメントや、遊佐と鳥海山の自然に親しむためのインタープリターの養成と派遣やネイチャースクールの受け入れなど、夢は広がっていく。

鳥海自然ネットワークは、こうした壮大な実験のもとに誕生し歩み始めた。新しい発想と実践の組織として、鳥海山を取り巻く自然環境とそこに内包されている宝物を磨き育てていきたいものである。

今井 富世

ゆざ環境協働組織「鳥海自然ネットワーク」理事長。ユザネイチャーズネイチャー代表。1949年2月17日横浜市生まれ。遊佐町大字吉出字懐ノ内3-17。遊佐町東部地区環境保全対策委員会委員。月光川漁協遊魚監視員。平成元年まで横浜市在住、平成2年に遊佐町鳥海山麓に移住。平成3年にユザネイチャーズネイチャー結成。以来、リフォーム業のかたわら自然を生かしたビジネスを目指し、フライフィッシングエリア、フライフィッシングスクール、ネイチャーフィッシングガイド、地元特産品の開発（サーモンソーセージ）をサブ的な仕事として、現在に至る。